

令和5年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会 部会長・副部会長会議を開催しました

令和6年2月27日(火)19:00～20:30

上越市福祉交流プラザで部会長・副部会長会議を開催しました。4つの専門部会が、それぞれ今年度の活動報告を行い、次年度に向けた思い等について、意見交換を行いました。

参加者：部会長・副部会長8名

上越地域在宅医療推進センター1名
事務局12名



※各専門部会からの活動報告は、がんぎネットに掲載中です。

【各専門部会からの報告】

入退院時連携推進部会

- ・ 部会での意見交換から、「かかりつけ医とケアマネジャーの連携の実態が分からない」という声があり、実態把握のためのアンケート調査を行うことになりました。
- ・ アンケート内容を検討する際、困った時だけかかりつけ医へ相談するのではなく、日頃から連絡を取り合うことで関係性が構築され、連携が円滑になる等の意見が出ました。連携ツールを活用して、かかりつけ医へ報告や連絡、相談ができるとう良いです。
- ・ かかりつけ医との連携について、タイミングが難しいとの声があり、退院カンファレンスの際にかかりつけ医へ連絡するよう、病院の地域連携室からケアマネジャーへ声をかけるとの案が出ました。病院側からも働きかけることで、医療と介護の連携が円滑になり、地域全体の医療の質が向上するものと考えています。
- ・ 令和6年度は、アンケート調査の結果を共有し、具体的な取組を検討します。

対人支援スキルアップ部会

- ・ 部会委員が研修パッケージを使った研修を体験しました。自分の支援の振り返りや職場研修への活用、部会としての今後の取組を考える良い機会となりました。

- ・ 部会の活動を通して、職種の違いによる視点の違いに気づきがありました。それぞれの専門性を発揮しつつ、その人らしさを大切にするという基本となる視点を共有することが大切だと思われます。
- ・ 対人支援は、全ての専門職の根底にあるものであり、日頃の業務内容と深くつながっているものです。自身の対人支援を振り返る機会を設けることは、重要であると感じています。人と人のつながりを大切にするという対人支援の考え方が当たり前のこととして、上越地域で広まると良いです。
- ・ 令和6年度は、研修パッケージを使った研修を職場や職域で実施してもらうための方策を検討します。

急変時対応部会

- ・ 急変時の対応について部会で検討するにあたり、「こうあってほしい」または「こうあってほしくない」という思いや、自分たちの立場でできることは何かという視点から意見交換を実施しました。意見交換では、職種の違いによる急変への認識の違いを感じる場面が多く、部会委員間における認識の統一に苦慮しました。話し合いをする中で急変時対応における課題が明確になってきました。

- ・ 急変時の意思決定には、日頃の ACP が重要になりますので、市民啓発部会とも連携が必要になります。
- ・ 関係者間の日頃の情報共有が不十分なことにより、いざという時にケアマネジャーの負担が増加している現状を再確認しました。また、緊急時の連絡先さえ把握していれば急変時対応ができるという訳ではないため、ケアマネジャーに限らず、どこか1か所に負担が集中しないよう、各職能でどのようなことができるのか、必要な取組について意見交換を行いました。
- ・ 令和 6 年度は、日頃の情報共有の大切さを考える研修会の企画・開催など、具体的な取組を検討していきます。

市民啓発部会

- ・ 「なぜこの活動が必要なのか」「なんのために部会を実施するのか」等、時間をかけて目的や活動の必要性を共有しました。部会内で「もしバナゲーム」を行ったことで、部会委員同士の価値観について知ることができ、活発な意見交換につながりました。
- ・ 部会内で「もしバナゲーム」を通じて ACP 啓発の重要性に気付かされました。部会委員自身の体験を踏まえ、地域に出向いた際に「もしバナゲーム」を実施してみました。地域の参加者からも、「日頃から考えることが大切だね」等の感想をいただくことが多く、部会の取組を少しずつ地域に還元できていると感じています。
- ・ 3 年間の目標を立案するのに苦慮しましたが、部会内でじっくり検討したことで、今では部会委員全員が同じ目標・熱量を持って活動できています。
- ・ 令和 6 年度は、専門職への啓発方法や市民に対しての ACP 介入のきっかけ、実施できる取組等について検討します。

意見交換では…

- 部会内の合意形成に向けた工夫について
 - ・ 部会としての取組目的の共有やこれまでの流れ等を振り返り、活動の方向性の共通理解を図ることを意識していました。
 - ・ 部会長として、委員の皆さんにたくさん意見を出してもらえるよう心掛けています。意見が適切か否かを判断する場ではないことを共有し、話しやすい雰囲気作りを意識しました。
 - ・ 職種の違いがある中での意見交換は難しいことも多いです。まずは、互いの立場を尊重し、様々な考え方があるという姿勢で傾聴できると良いです。
- ★ 意見交換の中で、上越地域在宅医療推進センターの揚石センター長より、ご意見をいただきました。
 - ・ 今年は、どの部会も関係性を深める1年であったと感じています。
 - ・ 職種の異なる人が集まり、数回話し合っただけでは、結論はすぐには出ません。意見交換ではモヤモヤすること、大変なこともたくさんあったことと思われます。
 - ・ すぐに結果を出そうとするのではなく、関係性を構築することが大切です。結果を求めると、人を責めてしまうことにもつながります。
 - ・ 関係性構築のためには、繰り返し話し合うしかありません。自分と異なる意見が出たときには、そのような考えもあるのかと受け止め、何故そのような意見が出るのか背景を考えることが大切になります。考えても分からない場合は、相手に教えてもらおうと良いです。

令和 6 年度は、3 期目の専門部会の活動 2 年目となります。令和 5 年度の検討を踏まえ、具体的な活動に取り組んでいきます。